

う よ み で 読

「若かった僕たちは理念を現実のものにしていこうと、小さな古い民家を借り受けて

『家族支援センターウ

ンズハウス』とい

う民間福祉サービ

スの事業所を始め

たのが、1994年の

春であった。」

それから12年、この本は出逢った人たちのニーズをそのまま形に変えてきた著者の軌跡である。

また、「決まったカタチがないからこそ、いろいろとユニークな取り組みが誕生したとも言える。しかし、そろそろ本格的に『地域生活支援』をカタチにしていきたいと思う」という言葉にもあるように、今までの実践のまとめと今後の社会への提案が語るように綴られている。

この本を読み進めていくと、障害のある人が生まれたときから大人になるまでに必要な地

障害のある人の地域生活をデザインする

岸田 隆著

Sプランニング ☎03-3766-1636 1,000円（税別）



域生活支援は何か、その全体像が浮かんでくる。ただ、長野市での実践を、そのままほかの地域に

置き換えてほしいというこ

とではない。福祉に携わ

る人たちが自分の仕

事もう一度振り返

り、「自分の地域を

作っていく」ということ

に、もっと本腰を入れな

いといけないという、著

者からの辛口メッセージ

である。

障害のある人を支えるのは、サービスそのものではなく、その人を理解している人が日常的に身近にいることで、それを、地域生活お助けマン“を命名すると書かれてあった。そんな地域生活お助けマンを目指す夢とロマンの物語なのである。

この本の向こうには、障害のある人の実際の生活がきつとある、そう感じる事ができる一冊である。

（森山千佳子）